

英単語を“理解”しよう

言う・話す・伝える（ **say speak tell teach talk** ）を使い分ける

- ・ **tell**
- ・ **teach**
- ・ **say**
- ・ **speak**
- ・ **talk**

皆さんは上の **5** つの単語を区別して使えていますか？

中学校ではどれも、「話す・言う」として習っているはずです。

ですが、同じ言葉、同じ意味を表すのであれば **1** つににしてもいいはずですよ。

例えば **teach** と **tell** が同じなら、一方の単語は存在しなくても **OK** ということです。

でも、面白いことに単語は存在します。

ということは、単語自体にやはり違いがあるんですよ。

さあ、早速ですがその違いを紐解いて行きましょう。

【 **tell** 】

この動詞は「話す」「言う」でいうと、「話す」という意味で使われることが多いです。

しかし、この単語の意味はこうやって覚えるといいですよ。

→ **tell** → 伝える

覚えましたか？ **tell** は伝えるという単語です。例えばこんな例文見たことありませんか？

Could you tell me the way to the postoffice ?

（私に郵便局までの道を教えてくださいませんか？（言ってくれませんか？））という和訳になりますね。

ほら、**tell** は教えるという表現になっていますよね。むしろ今まで習ってきた、「言う」や「話す」では和訳しづらいことに気がきますよね。

tell は、その人が持っているものを、相手に受け渡す感覚のある単語なのです。

A さんが持っている郵便局までの道順は決して正しいものかどうかかわからないけれど、**A** さんが知っている情報を私に受け渡してくれませんか？ と言っている文に見えてきますよね。大切なのは、やはり単語の持っている感覚をつかむことです。

いいですか？ **tell** は「伝える」と覚えましょう。

これで覚えることで、**tell** の入った英文が簡単に訳せるようになりますよ[^_^]

【 teach 】

この動詞も中学校の勉強でよく使う単語ですよ。

さて、皆さんはもう 少しずつ単語の意味の違いを理解してきたのではないのでしょうか。少なくとも、ここまで文章を読んでくださっているからには、「言う」や「話す」で訳されないことに気付いていますよね。では、見て行きましょう。

teach はこのように覚える！ ↓

→ **teach** → 教える

えっ？そのまんまじゃん・・・。はい、そのまんまです。一般的に知られている意味かもしれない。ですが、ちょっと待ってください。やはり、ここでしっかり身につけていたきたいのは、ただ単に「教える」と覚えてしまっただけでは英会話などの表現では使えないと言うことです。

teach を使った文章を見てみましょう。

Please teach me.

（私に教えてください。）

とても簡単な文ですが、内容は深いですよ。上の文を見る限りでは、単に「私に教えてくださいよ」と言っているように見えますが、これを発言した人の気持ちはどうでしょう？実際のところ、**teach** ではなくても **tell** でも **OK** なんですよ、この文章は。

でも、**teach** を使っている理由は为什么呢。

さあ見て行きましょう。**teach** は **tell** と違い、【正しい方法を教える】という意味があります。つまり、成功するためにはどうしたらいいのか？間違えないで済むにはどうしたらいいのか？それらを聞きたい時に **teach** を使います。

ほら どうですか？先ほどの **tell** との印象が全然違うことに気付きますよね。

「間違った情報でもいいから、あなたの持っている情報を教えてください！」 = **tell**
と

「頼むから正解を教えてください！」 = **teach**

このように見たときに正解を教えてくれるにはどちらの単語を選べばいいのかわかりますよね？

また、道を尋ねる時に、なぜ **tell** を使うのかわかってきますよね？

初めて会った人に「頼むから〇〇までの“正しい道順を正確に”教えてください！」なんて言えますか？状況にもよりますが、それを言われた相手は「ええ？？正しい道順？知りませんよそんなの～」と言われ、簡単に **NO** とつきかえされちゃいます。

やはり単語は話すヒトの感情が大切だということですね。

【 say 】

出てきました！定番の「言う」ですね。

これはとても単純に理解できますので、気を楽しんで読んでくださいね。

say という単語はこのように覚えます。 ↓

→ say → 言う

この単語使った英文を見てみましょう。（もし、お手元に教科書や参考書などがあれば開いて見てください。）

She said “Sit Down!”.

（彼女は“座れ！”と言った。）

うん、これで終わりです、、、

では、マズイですね。解説をしてみますね。

先ほどから言っていますが **say** は「言う」そのものです。ただ「言う」には何の感情もこもっていません。上記した **tell** や **teach** のように発言者の気持ちは一つも入っていないと言うことです。

ただ単に 彼女は〇〇って言ったんだ。 はい 終わり。

こんな感じの文で使います。

こんな場面ありませんか？

A：昨日宿題忘れて先生に怒られたんだ・・・

B：え～！そうなの！！ で？なんて言われたんだい？

A：ああ、、、え～つと、、、「明日はオレと宿題をやるぞ！」と言われた。

B：あら～ そうなの、、、頑張ってるねえ。

「明日はオレと宿題をやるぞ！」と言われた。 ←この部分の言われた言葉に注目しましょう。言われた言葉をただ単に **B** 君に報告しているだけです。その言葉に感情はこもっていません。なので、**Ah...・・・Teacher said “You have to study your homework with me”.**

このような英文が出来るわけです。もし、先生の言葉が **A** 君にとって感情を動かす言葉であれば違う英文が出来ます。ここではその英文は示しませんが、やはりここでもお分かりのように、話すヒトの意識・感情が単語を決めていますよね。

それでは、「言う・話す」の最後の単語「**speak**」「**talk**」へ行きましょう。

【 speak 】

これも一般的に「話す」という単語の代表的なものですよね。

先に言います。この単語は「話す」で間違っていないです。ただし！！話し方が今までと違うので、その違いを理解していきましょう。**speak** の意味はこんな感じ！ ↓

→ **speak** → (一方的に) **話す**

(一方的に) という言葉を補充してきましたが、感の鋭い方はお分かりになったかも知れませんね。一方的に音が出てくるもの、皆さんの周りにきっとあります。

そうです、**speaker** (スピーカー) ですね。スピーカーは一方的に音を出し続けていますよね。そうなんです、**speak** という単語は会話を主体としていません。一方的に大勢に向かってスピーチをする、講演をする、などのときに使います。

小学校や中学校で校長先生の話が長いな～と思ったことはありませんか？

私は多分にあります【^^♪でも、今となれば、聞いておいて良かったと思います。

話は反れましたが、、

校長先生が全校集会で演壇に立って、生徒に向かって“話す”のは一方的ですよね？

生徒から質問が来ることはありませんよね？ そんなときには **speak** を使います。

I speak Japanese.

He speaks about baseball history.

上の文を日本語に訳すとき意識してくださいね。音が一方的に出ていることを！

つまり、上の文では 「私は日本語を話します」という和訳でもいいのですが

「私が話せるのは日本語だけなんですよ、それ以外は話せません 1つの言語だけですよ」となりますよね。

それに 下の文では、「彼は野球の歴史について話します」と日本語に訳せますが、彼の状況が見えますよね。彼は今どこにいます。休憩時間で友達と会話をしている最中でしょうか？違いますよね。

たぶん彼は、教室の前に行き、何かを発表しようとしているのではないのでしょうか。

なのでこんな和訳が出来ますね。「彼はこれから野球の歴史について語ります」

しかし、こんな和訳をテストで書いたら恐らく×をもらうでしょう【^^ゞ それは学校で習った方法で訳していないからです。ですが、覚えておいて欲しいのですが、中学校で習った和訳の仕方では本場では通用しないよ ということです。感覚だけでも身につけましょうね。

次は「**talk**」です。もう少しで終わりですから頑張りましょう！

【 talk 】

先ほど出てきた **speak** は一方的に話す場合に使われると学習しましたね。

それに対し 今回の **talk** はその正反対だと思ってください。

talk この単語はこう覚えてください。

→ **talk** → （双方向で）話す

違いがわかりますよね。あなたも聞いた事あると思いますが、“トークショー”という言葉。

なんとなくイメージできますよね。なぜスピークショーではないのか。

もし、スピークショーだとすると番組はたぶんこんな感じではないでしょうか？↓

A さんが今から自分の考えを話します、皆さんよく聞いてくださいね。

はい、次！

B さんが今から生活で起こった面白エピソードを話しますので、よく聞いてくださいね。

はい、次！

C さんが・・・。

お分かりですよね？**speak** は一方的であって相手の感想や考えを聞こうとはしていません。

自分が話せればそれで **OK** という感じです。

では、話を戻して、**talk** はどうでしょう。

先ほど **speak** は校長先生のお話 と書きましたが、これに関連して覚えるといいでしょう。

talk は、その校長先生が話している中で隣同士になった友達がコソコソ話をしている。

そんな時の会話が **talk** になります。

A : あのださあ 昨日ね面白いことがあったんだ

B : へえ・・・何なに？教えて～

A : それがさあ 昨日学校から帰る途中で・・・

↑ほら、会話が出来ていますよね、**A** さんが発した言葉に対して **B** さんが反応しています。

これが **talk** の基本イメージになりますよ。

B さんに向かって **A** さんが一方的に話している場合には **speak** を使い

独り言を言っている場合には **talk** を使います。えっ？ **talk** ?

そうなんです、独り言は「**A talks to himself**」のように **talk** を使います。

だって、そうでしょ？独り言って自分と自分で会話をしているでしょ？

やっぱり大切なのは話すヒト、話すヒトの感情ですよ。

tell teach say speak talk これらの単語は単純に「言う・話す」だけで片付けられるものではないということです。